放射状壁面噴流を用いた準置換換気方式空調に関する研究 (その7) CFD 数値実験に基づいたブロックモデルによる室内鉛直温度分布の予測 A Study on Semi-Displacement Ventilation using Radial Wall Jet (Part 7) Prediction of Vertical Temperature Distribution using Block Model based on Numerical Experiment by CFD

 ○杉田 雄希 (大阪市立大学) 小林 知広 (大阪市立大学) 梅宮 典子 (大阪市立大学)
Kazuki SUGITA *1 Tomohiro KOBAYASHI *1 Noriko UMEMIYA *1 *1 Osaka City University

The Impinging Jet Ventilation (IJV) system is an air-conditioning method to form thermal stratification. This system mixes air more moderately within the occupied zone than the Displacement Ventilation. The final objective of this work is to establish a simplified prediction method of vertical temperature distribution based on the Block Model. As numerical experiments, a parametric study on supply air momentum is first conducted by CFD in this paper. Based on those results, appropriate value of turbulent thermal diffusivity in the Block Model corresponding to the supply air condition is determined, because it is of great importance on vertical temperature distribution.

1. はじめに

本研究では置換換気方式に比べて室下部の居住域 空気が適度に混合する方式で床面付近から鉛直下向 きに給気する Impinging Jet Ventilation 方式^{1,2)}(以降 IJV 方式)を対象とし、十分に明らかにされていな い鉛直温度分布の性状解明とその簡易予測を目的と する。既往の研究^{3,4,5)}では実験室実験による気流分 布および温度分布の基礎的性状の把握、ならびに数 値実験の前段階としての非等温 CFD 解析の精度検 証を行った。上下に温度成層が形成される大空間の 予測モデルとして戸河里らののブロックモデルがあ り、置換換気室を対象として熱プルームの影響を組 み込んだブロックモデルに関する研究^{7,8)}も見られ る。しかし、これらの予測モデルで温度成層の形成 に大きな影響を及ぼす重要なパラメーターである上 下ブロック間の乱流熱拡散係数について検討した研 究は少ない。そこで本報ではブロックモデルの利用 を前提とし、室への給気風量を固定して吹出口数と 給気風速を変更した CFD 解析による数値実験を実 施し、それに基づき鉛直温度分布を適切に再現し得 る乱流熱拡散係数の同定を行った結果を報告する。

2. 放射連成 CFD 解析による数値実験

2.1. 放射連成解析

既報⁵⁾では、壁面の境界条件に実験室実験から得 られた表面温度を与えることで室内気流性状を再現 可能な CFD 解析手法を検討したが、給気条件等を 変更すると表面温度も影響を受ける。そのため、数 値実験でのパラメトリックスタディでは室外の温度 条件を境界条件とし、室内壁面間の相互放射を考慮 した解析が必要と言える。本節では、既報⁵同様の CFD 解析格子を用いた放射連成解析を行い、同等 の精度が得られることを確認する。解析対象は寸法 9.0×5.0×2.7mの室で、IJV 吹出面が床上 600mm に なるように設置され、夏期冷房時を想定した熱負荷 として室中央に発熱体(2.0kW)を有する(Fig.1)。 既往研究と同様、吹出風量 600m³/h、吹出温度 20℃ とし、乱流モデルにはSST k-ωモデルを用いた。放 射計算は透過や空間内の吸収・散乱を無視した表面 メッシュ間のみの放射解析 (Surface-to-surface モデ ル)とし、メッシュ間の形態係数はレイトレーシン グ法にて算出した。境界条件として外部温度および 壁面の物性値を与えた。解析条件を Table 1 に示す。



Fig.1 Calculation Domain (Validation Model)

Table 1 CFD Analysis Condition						
CFD code		Ansys Fluent 14.5				
Turbulence Model		SST k-ω Model				
Radiation Model		Surface-to-surface Model				
Algorithm		SIMPLE				
Discretization Scheme for Advection Term		QUICK				
		Velocity Magnitude : V=4.716m/s				
	Inlet	Turbulent Intensity : I=10%				
		Turbulent Length Scale : L=21mm				
Boundary	Outlet	Velocity Magnitude : -0.463m/s				
Conditions	Walls	Room Walls : External Temperature				
	(Heat)	Heating Element Surface : Heat Flux				
	Walls	Symmetry : Free Slip				
	(Velocity)	Other Walls : Linear-Logarithmic Blending Law				
Total Number of Cells		2,023,362				



Horizontal Average Temperature

表面温度を与えた解析⁵⁾および放射連成解析にお ける室内鉛直温度分布を Fig.2 に示す。放射連成解 析でも同等の精度が得られることが示されたため、 次節では放射連成解析を用いて数値実験を行う。

2.2. 数值実験概要

本節では吹出口数量を変更した数値実験を行い、 鉛直温度分布の性状を把握する。吹出口数の異なる 4条件(1,2,4,6個)を設定し、風量の合計が等しく なるように吹出風速を設定した解析を行う。つまり 投入熱量を固定し,給気運動量のみの変化が温度成 層に及ぼす影響の把握を意図した。その他の解析条 件は原則として前節と同様とした^{注1)}(Table 2)。解 析空間(Case 1)と各条件の平面図を Fig.3,4 に示す。 4条件の水平面平均温度の鉛直分布を Fig.5 に示す。 室上部の温度に大きな差異は見られないが、居住域 下部では吹出口数量の増加と共に温度が低下し、上 下温度差が増加する傾向が見られる。よって吹出口 と吹出風速を適切に設計することで省エネかつ快適 な居住域環境を実現できる可能性があると言える。

3. ブロックモデルによる室内鉛直温度分布の予測 3.1. モデル概要

ブロックモデルは室内空間を鉛直方向に複数のブ ロックに分割し、室・壁面・熱プルームのブロック 間の移流・拡散ならびに壁面での熱伝達による熱移 動を評価し、鉛直温度分布を簡易に予測する方法で ある。本研究では、実験室実験および数値実験と同 様の室を想定して室寸法を 9.0×5.0×2.7m とし、室内 を鉛直方向に等間隔に10分割した。ブロックモデ ルの概要図を Fig.6 に示す。室上部から順にブロッ ク番号 Iを1~10とし、IJV による給気は最下部の ブロック10から行い、排気は最上部のブロック1 から行う。また、強い熱プルームを生じる発熱体を 想定した発熱量は実験および CFD と同様に 2.0kW とした。本モデルでは鉛直温度分布を予測するため に、壁面に沿う下降流(あるいは上昇流)を表現す る「壁面流モデル」、熱プルームの影響を考慮する「熱 プルームモデル」、上下の温度差による熱移動を評 価する「熱移動モデル」の3つに分けて考える。



3.2. 計算過程

Fig.7 にブロックモデルの計算過程を示す。本モ デルは、壁体情報、発熱体条件、対流熱伝達率、給 排気風量等を入力し、各ブロックに仮定した初期温 度を与える。まず戸河里らの手法⁶により各壁面(K) ブロックで生じる下降流(または上昇流)の風量を 算出する。次に発熱体(L)からのプルーム流量の 算出を行う。本研究では大きな熱負荷を有する発熱 体を設置するため、発熱体から生じる熱プルームが 室内鉛直温度分布に大きな影響を及ぼす。そこで、 プルーム流量の予測式⁹を用いて、ブロック境界高 さにおける風量を算出し、それに基づき各ブロック からの誘引風量を算出する。また、流入風量をもと に、ブロック温度およびプルーム温度から熱量収支 を計算する。この後、壁面流および熱プルームによ る誘引風量から各ブロックの上下ブロック間の風量 収支および熱量収支を計算する。熱量収支の計算に おいては隣接するブロック間の乱流熱拡散を考慮す るため、熱拡散係数 a_r [m²/s] を用いて熱移動係数 C_b [W/(m²·K)] を算出して計算を行う^{注2)}。

最後に収束状況を確認し、条件を満たしていれば 計算を終了する。風量収支・熱量収支の概要図を Fig.8に示し、計算方法を Table 3 に示す。

3.3. 予測結果と解析結果の比較

本節では、放射連成 CFD 解析の結果を真値と仮 定してブロックモデルによる予測結果と比較する。 上下ブロック間の乱流熱拡散係数 a, は、室の上部と 下部でそれぞれ $a_{t upper}$ と $a_{t lower}$ の 2 つに区別し、温 度分布の計算結果が真値と最もよく一致する組み合 わせを最小二乗法により有効数字2桁で同定する。 $a_{t upper}$ はブロック1~7のブロック境界、 $a_{t lower}$ はブ ロック7~10のブロック境界として、それぞれ10-5 ~10⁻¹の範囲で同定した。これは吹出気流の影響を 受ける領域を室上部と区別することを意図したため である。室ブロックとプルームブロック間の乱流熱 拡散は熱移動係数 Cbp を用いて計算し、Cbp=1.0 [W/ (m²·K)]として、プルーム周長^{注3)}にブロック高さを 乗じた境界面積を適用した。なお、本報のブロック モデルの境界条件には放射連成 CFD 解析における 給気温度、床面・天井面・壁面温度を与えた。



Table 3	Calculated	Method	of Block	Model
	Calculated	Methou	OI DIOCK	widdei

Air flow rate of plume			Air flow rate and heat balance of room block		
$V_p = 0.005 \times W^{\frac{1}{3}} \times (h - h_0)^{\frac{5}{3}}$			$\sum_{K=1}^{m} \{V_{in}(I,K) - V_{out}(I,K)\} + V_{xa}(I) - V_{ca}(I) - \sum_{L=1}^{n} V_{pin}(I,L) + V_{c}(I+1) - V_{c}(I) = 0$		
Air flow rate balance of wall dow	n flow		Top block		
$V_{out}(I,K) - V_{in}(I,K) + V_{md}(I-1,K) - V_{md}(I,K) = 0$			$\sum_{m=1}^{m} C_{p} \rho V_{m}(I,K) \{T_{m}(I,K) - T(I)\} + \sum_{m=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T_{p}(I,L) - T(I)\}$		
Air flow rate and heat balance of plume block			$\begin{bmatrix} L_{-1} \\ +C_{p}\rho V_{c}(I+1)[T(I+1)-T(I)] - C_{p}\rho V_{c}(I)[T(I-1)-T(I)] \end{bmatrix}$		
$V_{p}(I+1,L) - V_{p}(I,L) + V_{pin}(I,L) = 0$			$+C_{b}(I+1)A_{b}\{T(I+1)-T(I)\}+\alpha_{c}A_{b}\{T_{c}-T(I)\}+\sum_{n}^{n}C_{np}H_{b}B_{p}(I,L)\{T_{p}(I,L)-T(I)\}=0$		
[Top block]			[Medium block]		
$\sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{p} (I+1,L) \{ T_{p} (I+1,L) - T_{p} (I,L) \}$	$\left\{ +\sum_{L=1}^{n} C_{bp} H_{b} B_{p} (I, L) \left\{ T(I) - T_{p} (I, L) \right\} = 0 \right\}$	$\sum_{p=1}^{m} C_p \rho V_m(I,K) \{T_m(I,K) - T(I)\} + C_p \rho V_c(I+1) \{T(I+1) - T(I)\} - C_p \rho V_c(I) \{T(I-1) - T(I)\}$			
[Medium block]			$ + C_{1}(I)A_{2}\{T(I-1) - T(I)\} + C_{2}(I+1)A_{2}\{T(I+1) - T(I)\} + \sum_{n=1}^{n} C_{n}H_{n}B_{n}(I,L)\{T(I,L) - T(I)\} = 0 $		
$\sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{p} (I+1,L) \{ T_{p} (I+1,L) - T_{p} (I,L) \} + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin} (I,L) \{ T(I) - T_{p} (I,L) \} $			$\begin{bmatrix} Bottom block \end{bmatrix}$		
$+\sum_{L=1}^{n} C_{bp} H_{b} B_{p} (I,L) \{T(I) - T_{p} (I,L)\} = 0$		$\sum_{m=1}^{m} C_{p} \rho V_{im}(I,K) \langle T_{m}(I,K) - T(I) \rangle + C_{p} \rho V_{im}(I) \langle T_{im}(I) - T(I) \rangle$			
[Bottom block]		+ $C_{p}\rho V_{c}(I+1)(T(I+1)-T(I)) - C_{p}\rho V_{c}(I)(T(I-1)-T(I))$			
$\sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T(I) - T_{p}(I,L)\} + W + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T(I) - T_{p}(I,L)\} + W + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T(I) - T_{p}(I,L)\} + W + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T(I) - T_{p}(I,L)\} + W + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T(I) - T_{p}(I,L)\} + W + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T(I) - T_{p}(I,L)\} + W + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T(I) - T_{p}(I,L)\} + W + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T(I) - T_{p}(I,L)\} + W + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T(I) - T_{p}(I,L)\} + W + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T(I) - T_{p}(I,L)\} + W + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) \{T(I) - T_{p}(I,L)\} + W + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) + \sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,$	$\sum_{l=1}^{n} C_{bp} H_{b} B_{p} (I, L) \{ T(I) - T_{p} (I, L) \} = 0$		+ $C_b(I)A_b\{T(I-1)-T(I)\}$ + $\alpha_c A_b\{T_f-T(I)\}$	$\left\{ + \sum_{L=1}^{n} C_{bp} H_{b} B_{p} (I, L) \left\{ T_{p} (I, L) - T(I) \right\} = 0 \right\}$	
Nomenclature			1		
V_p : Air flow rate of plume [m ³ /s]	V_{sa} : Supply air flow rate [m ³ /s]	T_{sa} :	Supply air temperature [°C]	$A_{\!_{b}}$: Area of boundary surface of block $[\mathrm{m^2}]$	
V_{pin} : Entrainment air flow from block [m ³ /s]	V_{ea} : Exhaust air flow rate [m ³ /s]	W :	Heat generation rate of heating element [W]	H_b : Height of one block [m]	
$V_{\rm in}~$: Inlet air flow from wall down flow $\rm [m^3/s]$	$V_c\;$: Vertical flow rate between room blocks $\rm [m^3/s]$	h : F	Height above the floor [m]	B_p : Circumferential length of plume [m]	
V_{out} : Outlet air flow to wall down flow [m ³ /s]	T : Room block temperature [°C]	h_0 :	Distance to virtual point heat source from floor [m]	C_b : Heat transfer coefficient between blocks [W/(m ² ·K)]	
V_m : Mixed wall down flow [m ³ /s]	T_p : Plume temperature [°C]	B : 0	Circumferential length of heating element [m]	C_{bp} : Heat transfer coefficient around plume [W/(m ² ·K)]	
V_{-} : Vertical flow rate of mixed flow $[m^3/s]$	T : Temperature of wall down flow [°C]	$C \rho$	· Volumetric specific heat of air [1/(m ³ ·K)]		

Table 4 に同定された $a_{t upper}$ と $a_{t lower}$ を示すと共に、 各条件の水平面平均温度の鉛直分布を Fig.9 に示す。 全条件において CFD 解析とブロックモデルの結果 が概ね一致しており、IJV を対象とした場合に乱流 熱拡散係数を室の上部と下部の2領域に分割するこ との妥当性が示されたと言える。温度予測モデルの 確立にはこの2種の乱流熱拡散係数を設計条件等か ら予測可能とする必要があり、それぞれの領域につ いて特徴的な無次元数の関数として整備されると有 用と言える。ここではその初期検討として、a, lower は給気と室下部の温度差、a_{t upper}は室の上下温度差 が支配的と仮定して以下の2種のAr数を定義する。

$$Ar_{SA} = \frac{g \times \beta \times \sqrt{A_{in}} \times (T_{10} - T_{SA})}{v_{SA}^{2}}$$
(1)

$$Ar_{room} = \frac{g \times \beta \times H_r \times (T_{EA} - T_{SA})}{v_{SA}^2}$$
(2)

ここで、g: 重力加速度 [m/s²], β: 体積膨張率 [1/K], *A_{in}*: 吹出面積 [m²], *v_{s4}*: 吹出風速 [m/s], *T₁₀*: 最下 部ブロック温度 [℃], T_{S4}:給気温度 [℃], T_{E4}:排 気温度 [℃], *H*_r: 天井高 [m] である。Fig.10 にそれ ぞれの領域のAr数とa,の関係を示す。室上部にお いては低風速で Arroom が大きくなるほど at upper が低 下する傾向が示された。吹出後の衝突噴流の影響を 受ける領域の Ar_{SA} と $a_{t \ lower}$ でもその傾向は見られる ものの、室上部と比較するとat lowerの値は大きく、 給気風速を抑えても一定の値を下回らない可能性が ある。これは衝突噴流により室下部では空気の混合 が促進されることが影響していると考えられる。

4. まとめ

本研究では放射連成 CFD 解析の精度を確認した 上でそれを用いた数値実験を行った。その後 CFD 解析結果を真値としてブロックモデルによる室内鉛 直温度分布の簡易予測に必要な乱流熱拡散係数を2



領域に分けて同定すると共に、温度分布予測精度を 示した。今後は設計条件を変更した数値実験の結果 を蓄積し、乱流熱拡散係数の適切な関数化を図る。 [注釈]-

- 注1) 精度検証時は放射の影響を抑えて壁面にアルミ仕上げの断 熱材を設置した実験室実験を再現して放射率を0.1とした が、数値実験ではより現実的な壁面を意図して 0.85 とした。 また、排気口を1箇所から均等な4箇所配置に変更した。
- 注 2) 熱移動係数は乱流拡散によるブロック間熱移動の影響を考 慮する係数であり、 $C_b = a_t \times C_p \rho / H_b$ で与える。
- 注3) 文献 ⁹⁾を参考にプルームが鉛直方向から軸対称に12.5 度の 広がり角度を有すると仮定してプルーム周長を計算した。

[参考文献]

- 1)T.Karimipanah, H.B.Awbi : Theoretical and experimental investigation of impinging jet ventilation and comparison with wall displacement ven-tilation, Building and Environment, Vol.37, Issue 12, pp.1329-1342, 2002
- 2) H.Chen, B.Moshfegh : Investigation on the flow and thermal behavier of impinging jet ventilation systems in an office with different heat loads, Building and Environment, Vol.59, pp.127-144, 2013
- 3) 宇佐美亮太,小林知広ら: 放射状壁面噴流を用いた準置換換気 方式空調に関する研究(その1),空気調和衛生工学会近畿支 部学術研究発表会論文集, pp.277-280, 2013.3
- 4) 冨田篤,小林知広ら: 放射状壁面噴流を用いた準置換換気方式 空調に関する研究(その3),空気調和衛生工学会近畿支部学 術研究発表会論文集, pp.413-416, 2014.3
- 5) 杉田雄希,小林知広ら: 放射状壁面噴流を用いた準置換換気方 式空調に関する研究(その6),空気調和衛生工学会大会学術 講演論文集, 第6卷, pp.177-180, 2015.9
- 6) 戸河里敏, 荒井良延ら: 大空間における上下温度分布の予測モ デルその1,日本建築学会計画系論文報告集,第427号, pp.9-19, 1991.9
- 7) 東本丈明,山中俊夫ら:冷却面を有する置換換気室内の温度・ 汚染物濃度分布-熱プルームを組み込んだブロックモデルの 適用-, 日本建築学会環境系論文集, 第571号, pp.47-53, 2003.9
- 8) 石黒亮,近本智行ら:緩衝ブロックを用いた置換空調の室内上 下温度分布予測モデルに関する研究,空気衛生調和工学会近畿 支部学術研究発表会論文集, pp.151-154, 2012.3
- 9)Håkon Skistad : DISPLACEMENT VENTILATION, Research Studies Press Ltd., 1994



Fig.10 Correlation between Archimedes Number and Turbulent Thermal Diffusivity for Upper and Lower Region in the Room

